

村誌が語る戦争

ウクライナとロシアの戦争が一年を超えた。これほどの大きな戦争は久しくなかった。現在、日本は平和であるが、過去には外国に向けて争いや戦争を行っていた。今回は、こうした戦争時代の昭和村の様子について紹介する。

明治時代、日本もロシアと激しい戦争を行った(日露戦争)。日本はこの戦争で勝利を収めたが、これをきっかけに国民に戦争への意識を高めようと市町村ごとに「在郷軍人会」がつけられた。本村では合併前の糸之瀬村と久呂保村に誕生し、日清・日露の戦争体験者が役員に就任した。糸之瀬村誌には明治四三年から昭和一八年までの記録が残されている。『大正九年九月「シベリアに出征していた歩兵上等兵奈良松雄外三名の凱旋のため歓迎をする」・昭和二年五月「支那動乱に出征している兵士の武運長久を糸井小高神社 貝野瀬武尊神社に祈願をする」・昭和七年二月「動員下令とともに動員令状が役場に到着令状交付について村当局の応援を行い完璧を期す」・昭和一六年四月「教育召集兵 加藤正章

他四名の出発を歓送した』などの記述がある。また、会は戦死者の遺骨の受け取りも行った。他にも補充兵教育や入営や帰郷の兵への送迎など、多岐にわたる活動を行っていた。「在郷軍人会」は終戦後解体となり、今やその存在は忘れられている。



忠霊塔 (森下)

さらに村誌には、日露戦争からシベリア出兵、満州事変、日華事変、大東亜戦争の戦死者が写真入りで掲載されている。糸之瀬村では百十二名、久呂保村では百四十名、計二百五十二名の青年、壮年の方々が戦争で命を失った。村誌は、平和の礎をきずいた犠牲者の方々を長く記憶にとどめ、冥福を祈りたいと述べている。

参考 糸之瀬村誌、村誌久呂保

昭和村ボランティアガイドの会

理事 堤 義樹

地域おこし協力隊通信

問合せ 企画課地域振興係
☎24-5111(内線141)



たかがゲーム、されどゲーム



昭和村地域おこし協力隊 綿貫 秀人 隊員

道の駅「あぐりーむ昭和」旬菜館で活動中!

こんにちは。地域おこし協力隊の綿貫です。2月22日に、高崎市にある「GUNMA ESPORTS」で群馬県企業等対抗社会人eスポーツリーグに参加してきました! 私は、これまでサッカーをしてきて「スポーツII体を動かす」という認識でいて最初にeスポーツと聞いたときはゲームなのになんでスポーツなの?と疑問に思っていました。ですが、その考えもこの大会に参加し実際にeスポーツを体験してみても変わりました。大会では「eFootball™」を通じて仲間と協力してゴールを目指し、得点を決めたら喜びを分かち合い、逆に決めら



仲間とともにいい「汗」流しました!

れたら悔しがりました。私がこれまで経験してきたスポーツと変わらない感動や悔しさ、仲間と一緒に勝利を目指すことがeスポーツには詰まっています。形は違えどこれはスポーツだと認識できたいい経験でした。